

藝備孝義傳三編

沼田安藝

卷五

まひひ兄あにあ人ひとの本家ほんけを重人おもひとて事こともあ親おや存ぞんせし時ときの
かぐえからいける。まゝ年としくの真まこと七しちのいつも他人たにん
よりいそやうたてまつりぬかれら事ことの事こともさ感かん
してその状かたちをさうしあけうぬきことと回かえし年とし。
歩あゆるめあうて。長なが花はなよ米こめ三さん俵ばうをうい。孫まご之の吉きち花はな八はちも
おのく鳥目とりめをうさる。

○戸坂村とさかむらきよ

きよは幼えら弟あによて父ちち忠ただ八はちよあれ母ははと妹あねとあり。きよよ。
十八じゅうはちの歳としより。城下じやうげよ出て。九く条じょうむうりやうりを公こうより更さらす所ところの

給銀を一鉢も又よつけざらば母はおくけける。廿七よそ
 鄰村の某の娘せよ。後妹もすく化子適母の家に
 あつて。歌いし。傾きつゆの瘡積の宿疹にやや
 けらふ。誰一人介保をたもてざるものもあければ。あつよ
 途くこ事を憂ひて。日夜心も安らうとて。遂は夫にむし
 移んごらふ。ふこころうて。いとまを乞へに。夫も。かまはら
 心を憐れ。ゆるし。て家なぬら。し。む。さよ。と。づ。ら。なる
 田畑をばり。或ハ人よ雇われ。あど。し。母を。ま。ひ。る。が
 母はいよく老衰。一。身に疾さ。あれ。ば。さ。ま。づ。の。こ。れ。と

びと。いひ。くれ。ど。きよ。貧窮のらち。より。心と。け。く。し。て
 い。ま。あ。つ。出。か。つ。て。その。意。た。だ。ら。び。で。化。よ。と。を。れ
 ゆ。さ。て。も。母が。食。事。の。以。て。か。ん。づ。帰。り。て。食。もの。を
 そ。の。の。母よ。さ。め。を。た。り。て。ま。く。行。ぬ。され。と。産。む。し
 か。さ。る。對。して。心。あ。ら。う。ぢ。や。さ。ひ。けん。後。の。家。よ。れ。こ
 あ。り。て。昼。夜。暑。寒。の。か。わ。く。糸。ひ。き。機。織。こ。ら。飯
 け。め。本。孫。を。城。下。よ。お。ゆ。き。て。賣。代。ま。し。こ。も。て。めて
 生。き。ま。し。ん。城。下。ま。で。ハ。一。玉。む。り。りの。跡。あ。ると。は。け。ひ。よ
 抱。こ。め。て。出。母。は。新。飯。ま。あ。ら。う。と。ころ。ハ。必。あ。ら。り



来りし其夜とよ母が好めるおを取くらばと
 つこことち母病ころろよき涙はこれもおひくと
 ちかきよいつもいざとてよもやまの話を一つ
 ちかきよおひきけるが老人のひきおを交て後
 あせ一本海ハ價ようらぎをその事を母よとら
 一めぞ今日もよく人の買て利をうらること多あり
 ちかきよいつもいざとてよもやまの話を一つ
 ちかきよおひきけるが老人のひきおを交て後
 あせ一本海ハ價ようらぎをその事を母よとら
 一めぞ今日もよく人の買て利をうらること多あり
 ちかきよいつもいざとてよもやまの話を一つ
 ちかきよおひきけるが老人のひきおを交て後
 あせ一本海ハ價ようらぎをその事を母よとら
 一めぞ今日もよく人の買て利をうらること多あり

此の厚きさめを語く。且女かくまで愛よこし
 くれさふらゆとて。悦泣は泣くも。きよめてさてく
 勿体なきふもむらう。と申す。兄弟母一人の艱苦よて。
 かく長し。こなたなれ。いづるも。事あるも。あき
 たることあり。たゞ母れ餘命のあらましく。ばある日の
 短からんこと。歎けしけれとて。涙を流し。なれ。きく人も。
 皆ありれと。よまわし。感入りぬ。あるものあれは。
 費して米五た。うを。のみ。七花兄弟らと。同一年
 あり。こゝハ。國老上田 主水の采地は。係も。これよりさき。

かの家よりも。米穀と與らる。

按ずるよ。女子ハ。人に嫁して。夫は。後ハ。夫を天とま。り
 道あれは。夫は。嫁を。て。帰養し。ハ。夫婦の道よ
 於て。過たりといふ。これと。觀過知仁と。ハ。聖語も。ありて。
 さよ。過も。孝心の厚き。より。出たる。あれは。その。心い。あ。れ
 あ。を。と。て。官より。ハ。その。過。を。畧し。て。專。その。孝。と。の。こ
 事。せ。られ。賤。し。き。もの。ハ。備。る。こと。を。求。め。難。れ。ハ。あり。
 見るもの。これ。道理。を。辨。へ。き。こと。ハ。丁。好。高田郡向山村。き。こと。も。
 此。れ。ハ。同。

○畑賀村平兵衛妻ととも